

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502439		
法人名	有限会社 ドリーム キャスル		
事業所名	グループホーム キャスル 清田		
所在地	札幌市清田区清田3条2丁目7-4 011-881-9911		
評価機関名	(有) ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年9月3日	評価確定日	平成19年9月25日

【情報提供票より】 (19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	10 人	常勤7人, 非常勤 3人, 常勤換算2.1 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての 1~4 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷 金	有 (119,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無○	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要 (9月 3日現在)

利用者人数	15 名	男性 6 名	女性 9 名
要介護1	7	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 80.3 歳	最低 76 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サン内科医院 美しが丘病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人が運営する有料老人ホームで、自立の高齢者が認知症の症状によって生活が困難となったため、ホームの一部をグループホームに増築したり、工夫をしてサービスを提供し、単に部屋の移動で継続し、利用者も家族も馴染みの場所で落ち着いて暮らしている。元大学生対象の女子寮のため、構造上多少の無理はあるが、介護度の高い利用者も受け入れている。居室はゆったりとして馴染みの住まいとなり、プライドを尊重しつつプライバシーに配慮が見られる。毎回の食事は、老人ホーム等を含む施設全体分の調理を行なう独立した厨房で用意され、各ユニットで盛り付けなどをし、職員はケアに専念できる体制になっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>運営理念の明示は改善に取り組み、分かりやすくなされている。継続研修は外部の開催にできる限り参加を促し、費用も事業所で負担して実施している。入浴については、拒む利用者に工夫して語りかけ、週3回を目安にして支援している。口腔ケアは居室の洗面台を利用し、個別ケアに取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>新しい地域密着型の評価の理解が不足している。改訂版のガイドブックを事業所に配置して参考にし、具体的な改善に向けて、職員間で検討を重ねることが求められる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、今年度になって初めて6月に開催したが、法人内で運営推進会議をめぐって意思統一がされていなく、合意を得ていない。行政とも相談し、運営推進会議の意義を理解して、積極的な取り組みを望む。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>家族には隔月「たより」を発行して様子を知らせている。また、ホームに来所したとき、気軽に声掛けして話せる雰囲気をつくっている。苦情の「受け箱」を置いている。家族の意見については職員で話し合っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>事業所と地域との係わりは希薄であるが、同じ建物内の老人ホーム入居者と交流を企画するなど試みを期待する。また、当ホームの立地が住宅地である特性を活かして地域住民との交流を図る取り組みを検討されたい。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人が掲げている理念は、併設の有料老人ホームとデイサービスセンターと共通のもので、グループホームの独自のものではない。ケア目標は具体的であるが単独でない。	○	地域の中での枠を、同じ建物の老人ホームやデイサービスセンターとしても交流はなく、利用者が地域の中で暮らす視点を重視する理念を検討されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、日頃から、理念を基本として理解し共有しており、その人らしい暮らしのためのケアを目指して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所と町内会や老人会との係わりは希薄で利用者が行事に参加する取り組みはしていない。	○	利用者のほとんどが地元出身でないが、馴染みになれるよう取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度評価は受けていなかった。新しい地域密着型の理解が十分でなく、評価項目の具体的な改善への取り組みが不足している。	○	改訂版ガイドブックを参考にして具体的な改善に向けて、職員全員で取り組むことを期待する。

札幌市 グループホーム キャスル清田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度に初めて1回開催したが、まだ運営推進会議の意義が職員間で合意を得ていない。	○	事業所の施設は地域では老人ホームの認識が強く、グループホームの理解が十分得られていない。会議に関して法人内で合意を得、共有しての取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区内の連絡会議など、行政と連絡を密にし、定期的な報告など怠らなくしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所として隔月に「たより」を発行し、利用者の個別状況を文章で記入しながら家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は、ホームに面会にきたとき、職員と気軽に会話をして意見などを言っている。また、介護計画の作成時に家族の要望など聞いており、計画内容についても了解を得ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるだけ少なくして、利用者が不穏にならないようにしている。過去に職員の異動はほとんどない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては、区内のグループホーム連絡会が独自に研修の場を開催する時、職員は参加して学んでいる。また、ほかの職員に内容の分かち合いをしている。事業所内では、課題の設定をして研修をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を望んでいるが実施には至っていない。見学は行なっている。	○	グループホーム間の連携をとり、職員の交流や、相互間訪問など積極的な取り組みを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は、同一法人の老人ホームからの移動者が多く、日常生活において職員や環境に違和感なく自然に馴染みの関係になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と年齢差もあり、教えられる立場になったり、教えたり、支え合いの気持ちで良好な関係を保持している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に寄り添い、日頃の行動や表情から希望や暮らし方を把握して本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者毎に職員の担当を決めて日常的な支援をしているが、担当者から介護計画の意見を出し、チームで話し合い家族や関係者とより詳細に検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常の記録を参考にして3ヶ月毎に定期的に見直しをしているが、入院とか体調の変化などがあったときは、即話し合いをして計画変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として外出用に車があり、通院や外出支援など柔軟に対応し支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が希望者に月2回往診をしているが、利用者の希望で掛り付け医にも受診可能である。また、24時間対応できる仕組みになって、利用者も家族も安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では重度化や終末期の取り組みやあり方の検討するまでに至っていない。	○	できるだけ早い時期からの取り組みを検討し、方針のありかたについて結論を得るよう期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の話し合いで係わり方や利用者の自尊心やプライバシーに配慮することを心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての大まかなプログラムはあるが、あくまでも利用者が中心で本人の気持ちを優先して支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、老人ホーム等を含む施設全体分の調理を行なうため、各ユニットでは、職員と利用者とは協力して、盛り付けや、また、後かたづけをしている。食事は職員と会話をしながら楽しんで食卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ユニットにより、浴室のスタイルが異なるが、おおよそ週3回を目安に支援している。学生寮改造構造のゆえの困難性があるが、職員は工夫して介助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個性を重視し、得意の分野で力を活かせる役割を模索して楽しく暮らせるように応援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望に応じて買物、理髪、美容院、喫煙のため、散歩など、個別に外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上止む得ずオートロック式の鍵がついているが、外部からの不審者進入を防ぐ効果があり、利用者が外出するときは職員が同行している。		

札幌市 グループホーム キャスル清田

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回建物内事業所が合同で訓練を実施している。防災体制表や消防計画などマニュアルを作成している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1つの建物に有料老人ホームとデイサービスセンターとグループホームがあり、1箇所の厨房でまとめて食事作りをしている。栄養士の指導のもと利用者に喜ばれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとして検討すると、必ずしも利用者にとってベストとはいえないが、既に造られた建物の再利用と考えると各処に工夫が見られる。特に、居間から見える屋上のテラスは広く、鉢物の植物でオアシスとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、グループホームとなる以前から有料老人ホームを利用して単に部屋番号が変わった程度で間取りも同じで、馴染みの居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。